

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(2階フロア)

事業所番号	2795000518		
法人名	株式会社 美咲		
事業所名	グループホームみさき瓢箪山		
所在地	大阪府東大阪市喜里川町10-2		
自己評価作成日	平成27年10月18日	評価結果市町村受理日	平成28年1月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	平成27年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>昨年10月に開所して、一年が経過。入居者15名と満床には至っていないが、入居者一人一人が安心して生活していただきように職員とのなじみの関係を意識してケアをしています。年齢的に若く、介護が未経験の職員もいるため、今年度より定期的に勉強会を実施しています。地域とのつながりは、地域包括支援センターの協力のもと5月よりふれあいサロン(みさきサロン)を当施設で毎月実施しています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>開設して1年強でまだ満床には至っていないが、地域の福祉ニーズを把握して満床にすべく努力している。そのため、運営推進会議も開設当初から開催し、すでに地域包括支援センター、自治会代表、民生委員や利用者家族の参加を得て年6回開催している。経営方針として、地域に開かれた事業所を目指し、出来る限り地域にオープンにすべく地域包括支援センターの協力のもと、ホーム内で毎月第4土曜日にみさきサロン(ふれあいサロン)を開き、多数の地域住民が参加し交流の場となっている。職員からの意見を反映すべく、各種委員会(事故対策、感染防止、身体拘束・虐待、行事、防災)を立ち上げ、職員はどれかの委員会に所属し、意見や提案を聞き出す工夫もされている。川下ホールディングス共通の職員チェックシートを活用し、常に職員のケアを振り返り、身体拘束や虐待、接遇面等で問題点がなかったかどうかを職員自身にチェックして貰っている。</p>
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	サロン開催により地域に根づく取り組みを実施している。	現在は、経営法人(株)美咲の運営理念「私たち株式会社美咲は、ご利用者が歩いてこられた人生と豊かな経験云々……」を玄関に掲示されているが、当ホーム独自の理念については作成中である。	開設されて1年が経過しており、地域にも理解して受け入れて貰えるようなホーム独自の理念の作成を作られる事を望む。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域での行事やイベントへの参加がまだできておらず今後の課題。	自治会に加入し、地域行事の案内を広報紙や回覧でもらい、秋祭りの布団太鼓等を身近に見物している。ホームでも毎月第4土曜日にみさきサロン(ふれあいサロン)を開き、地域住民と交流している。ボランティアの受け入れや幼児との交流も考慮中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通じて、包括・自治会への働きかけを行っている。また、サロンで地域の方との交流機会を作っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議において参加者から評価・意見を聞き現場にフィードバックを行っている。	開設してまだ1年強であるが、すでに年6回開催出来ている。地域包括支援センター、自治会長、民生委員および家族が参加し、ホーム側から現況を報告しつつ、それについての意見や提案を聞いている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	不明な点等普段から連絡を取り確認させて頂いています。	市介護部福祉施設課とよくコンタクトをとり、分かり難い事例や困りごとの相談にのって貰っている。市主催の研修会にも必要なテーマであれば積極的に参加聴講している。市担当課も参加している施設交流会についても参加する予定である。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設内・法人の勉強会、職員へのアンケート、実際に起こった事例などを掲示し職員への啓発、ケアの見直しを実施している。玄関は、防犯上施錠をしている。	ホームで身体拘束・虐待予防委員会を2ヶ月に1度開き、色々な事例を検討し職員にフィードバックしている。又、職員にもチェックシートを配布し、今までのケアで身体拘束に当てはまるかどうかをチェックして貰っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内勉強会を定期的に行い、日常のケアの振り返り、日常の事例を通じて理解を深めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	実際、後見制度を利用している入居者がおられ、後見制度や関わりについて職員に周知を図っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	事前にご家族への説明を口頭・書面を通して行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	外部からの意見・要望を聞く意見箱を設置。苦情処理簿を作成しファイリングをしている。家族からの意見も記録・管理者への報告を行っている。	利用者からは、普段の何気ない会話や入浴時等に意見や提案等を聞き出している。家族もよく来所されるので、その際に聞いている。又、「本人のおたより」をほぼ毎月家族に送り、意見や要望を聞く努力もしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を月一回、また法人内では他の管理者と合同で管理者会議を行っている。	働く意欲の向上やそれに伴うサービスの質の向上にもつながるので、管理者は普段のコミュニケーションを重視し、何でも言い易い雰囲気作りを心がけている。又、職員の力量を把握するため、チェックシートを使い、年2回の個別面談もある。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に二回、チェックシートをもとに職員個々の状態を把握し、面接、聞き取りを実施している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入職時に法人作成のチェックシートを配布。年二回、チェックシートを自己評価・第三者評価を行い、次につなげるようにしている。また、法人内の新施設向け研修への参加も行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	交流会などへの参加。包括との共催のサロンを通じて交流・情報交換を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	環境が変わること、生活への不安を初回の面談、入所時に伺い、初回んぼケアプランに反映。居室担当をおき、より細かいケア・サービスを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学・入居前面談・契約(ケアプラ)家人に説明を行っている。また、ケアプラン更新時、面会時・電話などで定期的に家族との連絡を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	見学・面談時に聞き取りを行い、ニーズが合っているかの見極め、提供できるサービスであるかを検討し、もし合わなければ他のサービスの提案を行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	そのひとらしく生活できるように一方通行にならないようにしてはいるが、する・される関係になっている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との連絡は、密に行っている。毎月、お手紙にてご様子を伝え、行事や催しの案内なども行っている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少しの時間でも外に出るように努めており、お友達の面会や交流も多い。	利用者によってバラツキはあるが、友人・知人、近所の方の来訪はよくあるので面会は支援している。馴染みの場所としては、やはり自宅や理・美容院、外食のお店等があり、個別に家族が支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	人間関係を把握しテーブルや座る位置の変更を行っている。ソファなどのレイアウトも定期的に行い環境に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	長期入院での退去・特養入居での退去の方へのその後連絡を行い、再入居可能の際は、再入居にも対応している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプラン作成前に本人・家族への聞き取り、担当者などからの普段からの本人の希望などを反映してケアに反映させている。	入所申込があった場合、自宅へ訪問し生活歴、生活環境、趣味や楽しみごと等を家族と共に聞き出し、かかりつけ医の意見も添えてアセスメントシート(利用者のニーズ状況調査)を作成し職員全員で共有している。入居後も、本人の変化を観察し、介護記録に記入しケアプランの追加や変更の参考にしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前面談・家族からの情報、入居された後も本人から聞き取りケアを実施している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に一度のモニタリング、日常の生活状況を見極め必要に応じて見直しを実施。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	モニタリング、プラン更新時に家族・主治医の意見を聞き反映させている。	本人本位のケアプランを立てるため、ケアマネジャーを中心に居室担当者や複数の同ユニットの職員も加わり、アセスメントシートを参考にして、ケアプラン会議を開いて立てている。モニタリング(観察記録)は毎月行い、ケアプランの変更や追加は原則3ヶ月ごとに行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人の生活記録を作り、24時間で入居者の状況を記録して把握に努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われなない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	開所1年でまだ満床にも至っておらず、次の段階として今後検討していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域との交流は、これからの課題。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	24時間連絡体制の取れる提携医療機関がある。	利用者の大半は持病を抱えており、家族の援助で従来のかかりつけ医を受診される方もいるが、殆どの利用者については、24時間対応可能な協力医療機関をかかりつけ医とし、2週間に1回の往診を受けている。口腔ケアのため、歯科(歯科衛生士)については、週1回往診して貰っている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携にて週一回看護師が勤務。入居者の健康管理、状態の把握をしている。急な受診や医療機関との連携も実施。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院時、定期的に病院と連絡をとり必要に応じて訪問。早期に退院できるようにかかりつけ医とも連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りに関して、入居時に説明。ターミナルケアを希望される場合は、再度主治医を交えて説明、書面にて確認・同意を得る。	契約時にホームの方針「重度化した場合の対応に係る指針」を説明して利用者、家族に同意を得て、ターミナル期にホームでの看取ケースについては、主治医の協力のもと家族や職員が協力し合いながら取り組んでいる。急変時の対応についての事前意思確認書を取り交わしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応を各事務所に掲示。また研修などを行っているが、不十分。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難方法などを事業所内に掲示しているが、訓練など未実施で職員への周知も今後の課題。	消防署の立ち会いのもと避難訓練、自主訓練も行なっている。市のハザードマップをリビングの目につくところに貼って職員への意識付けにしている。もしものときに10分以内に駆け付けられる職員が数名いる。	火災や地震、水害など昼夜を問わずいつ起きるかわからない災害に対処すべく、地域との協力体制を運営推進会議などを利用して呼び掛けられたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	チェックシートの活用。シートを確認しながら自身のケアを振り返り、問題あれば改善。	事業所独自の接遇チェックシートを活用して振り返り、利用者への誇りやプライバシーを損ねかねないような言葉かけの有無をチェックしている。利用者を不愉快にさせた事例については、申し送りノートに記入し全員で共有している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	常に入居者の方の思いや希望を聞いて意向を確認している。自己表現が難しい方にも表情やしぐさなどを観察し読み取るようにしています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者のペースに合わせて無理強いせず、自己決定されたことを尊重させて頂いている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分で出来る方は、ご自身で。難しい方は本人に確認し選んでいます。髪形なども画一的に短くはせずカットし毛染めも希望される方はしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	準備・片付けなど出来る範囲で一緒に行っています。	業者から食材が届けられ、職員が手作りしている。嗜好調査で利用者の好みを知り、誕生日等の行事のときには業者を止めて、利用者好みのメニューやおやつ等を工夫し、利用者と共に食材等を買に行き楽しんでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者個々の食事量・水分量をチェックし体重などで栄養状態を把握。往診時の血液検査の結果や内診の結果をもとに補助食品や飲料での対応。好みの物を食べてもらうなどしています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを実施している。週一回の歯科往診で口腔内のケアも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	その方の、排泄パターンを把握しトイレで排泄できるようにケアをしています。介助も2人介助でする場合もあります。安易にオムツに頼らないようにしています。	排泄チェック表や固有のサインを見逃さず、早めのトイレ誘導を心がけ、一人ひとりの力を生かし、安易におむつに頼らない自立支援体制を取り、ほとんどの利用者が、トイレで排泄している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の原因である、水分不足にならないように須分量の把握。適度な運動(体操)や散歩など行っています。本人の状態に合わせて主治医と相談して薬での調整もしています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週3回入浴する機会を作っている。本人の希望を聞き入浴しなかったり、時間を変更するなどしている。	入浴は週3回を基本にその人に合った時間に個浴で入浴している。入浴拒否の人には曜日を変えたり足浴や清拭に変更したり、夏場にはシャワー浴にて対応している。BGMを流したり季節により菖蒲湯、入浴剤などで工夫しながら楽しい入浴になるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	起きっ放し寝っ放しにならないよう希望に合わせて短時間休んでいただいたり。本人の生活リズムに合わせています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理者・看護師・主治医にて毎回確認し変更、追加などは記録にしっかり記載し経過も観察しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	レク用品をリビングを設置。入居者が選んで取り組まれている。自宅から持ってこられたキーボードをひかれたり。職員相手に将棋をされる方もおられる。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	出たいときに戸外へはなかなか実施できていない。季節・天気により外の空気を吸える機会は増やしています。家族で外出される方は、多いです。	遠出の外出は、基本的に家族の協力のもとに行われている。日頃は、おやつや副菜を買いにスーパーへはよく出かけている。近くの季節の花見は日ごろの散歩時に行い、家族と共に外出されるご利用者も多い。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭の預かりはしていません。希望あれば施設が立て替えて買い物と一緒にいたりします。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望有れば、電話や取次はしています。全く制約はしていません。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節ごとに飾り付けをしています。子供っぽくならないよう過度な飾り付けはしていません。	東に生駒山を望む山麓に建てられた施設である。リビングには、自然の採光に溢れた光が優しく降り注いでいる。すっきりとした共用空間で居心地良く過ごせるような配慮がある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングのレイアウトも過ごしやすくつるげるように定期的に変更している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に普段使っているものをもってきていただくようお願いしている。危険が無い範囲で居心地の良い空間づくりをしています。	居室にはベッド、エアコン、カーテンが備え付けられ入居時には使い慣れた好みのものを持ち込み居心地良く過ごせるような工夫がある。写真を飾っている利用者が多い。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	バリアフリーの環境で、空間も広く取っており、生活同線を阻害するような、レイアウトもしていません。		